

学会名称変更に向けて

学会の名称は懸案課題でした。2008年10月に当時の会長名で「学会名変更について公募（依頼）」という文書が会員に配布され、学会名変更に向けた提案が行われました。その後も学会名称変更は幾度か提案されながら、変更には至っていません。

中央学院大学で開催された第20回大会の第20回大会記念企画「リメディアル教育の未来」では、2026年4月からの学会名称変更が提案されました。その背景には以下の3つの理由があります。

- ① **国際的な潮流への対応**: 高等教育の多様化が進み、学会の活動領域が補習からキャリア形成やリカレント教育まで拡大している。国際的には「Student Success」が主流となっており、この概念を取り入れることで、グローバルな研究との連携を強化することを狙います。なお、日本リメディアル教育学会が参考に設立された米国のNADEも、2021年にNational Organization for Student Success (NOSS)に名称を変更しています。
- ② **活動領域と研究分野の拡大**: 新しい名称は、基礎教育、キャリア形成、メンタル支援、非認知能力育成まで含むより広範な会員活動領域を包含するものにします。さらに、ICT・AI・XR、インクルーシブ教育、個別最適化された学びといった研究分野の拡大も視野に入れます。
- ③ **言葉の持つ力の活用**: 「リメディアル」という言葉が持つ「補習」のイメージから脱却し、「学習支援」というポジティブな言葉を用いることで、前向きなイメージを構築します。

第20回大会の第20回大会記念企画「リメディアル教育の未来」では名称変更案について、活発な意見交換が行われ、以下のような名称案が挙げられました。

- 日本学習支援学会（執行部案）
- 日本学習支援教育学会（執行部案）
- 学習支援学会
- 日本高等教育学習支援学会
- 日本大学教育学習支援学会
- 日本 Student Success 教育学会
- 日本リメディアル教育学会（現状）

大会記念企画を通じて、以下の2点については参加者の同意を得たと考えています。

1. Student Success の概念を取り入れ、英字表記には Student Success を含める
2. 現状の「日本リメディアル教育学会」から変更する

変更案においては、名称の中に「支援教育」や「日本大学」のような別の意味を持つ言葉が含まれるものは避けなければならないでしょう。「大学」や「高等教育」という言葉を含むべきという意見もありましたが、英語表記が Student Success を含むことで、高等教育現場が主な対象であることを示すことができます。

2026年1月12日に総会をオンライン開催して、新学会名称を決定する予定です。現在の会員の研究教育活動を含み、会員の皆様の周囲の方にも入会を勧めることができるような新学会名を目指します。